

2月2日の東京新聞夕刊1面に、ノコッタが紹介されました！

東京新聞 (夕刊)
2023年(令和5年)2月2日(木曜日)
©中日新聞東京本社2023 (日刊)

# のこった資材

余剰資材が多く保管されている八塩板金工業の倉庫内部―埼玉県朝霞市で



サイトで共有  
業者間で融通

工事現場で出る建材や壁材などの資材のロスが減らそうと、余剰資材シェアサイトを埼玉県朝霞市の板金業者が運営している。現場では余材は捨てるのが当たり前とされる資材。サイトで情報共有して必要な業者同士で無料か安価で譲り合い、廃棄や倉庫の在庫を削減することで、環境負荷の軽減など多くのメリットを生み出す。

(長竹祐子 写真も)

## 活用よかった

全国の余剰資材が77件あります



①全国の余剰資材が検索できる「ノコッタ」のサイト  
②倉庫に眠る余剰資材を紹介する八塩社長

余剰資材活用サイト「ノコッタ」を発案したのは八塩板金工業社長の八塩雄一さん(左)。板金職人として十八歳から修業し二十三歳で家業を継ぎ四十年。住宅や店舗、マンションの屋根や外壁の施工、修繕などを手がけるが、現場で当たり前のように捨てる資材を見るたび「もったいない。何とかできない」と。業者は資金繰りが厳しい中で、倉庫に在庫を抱え仕方がない。

「プロは物を大切に使う。ただでもいから使ってもらいたい。八塩さんは長年の思いを実現するため、昨年十一月、国が中小企業を後押しする「事業再構築補助金」を利用して「ノコッタ」を立ち上げた。相模好きの八塩さんが相模の「のこった」からサイトを発案。「残った」「余った」資材を使い切り「よかった」にしたいと願いを込めた。スマートフォンのパソコンから会員登録し余剰資材データをアップする。画面上で価格交渉や引き渡し方法を会員同士やりとりし取引する。会員登録や利用料まで全て無料だ。会員はプロの業者のみ限定するが「信用の裏付けがあるからトラブルになりにくい」。板金業に限らず、建設業、小売業、サービス業などプロの業者や職人なら分野は問わずに登録できる。

現在の会員数は全国に二百ほど。業者の中には事務所を持たない職人もおり「ノコッタ」を利用することで、資材の受け渡しの機会に同業他社との交流が増え、ビジネスチャンスになる利点も。

「余剰資材削減は脱炭素社会への参画や、SDGsとも合致する。率先して取り組むことで、業界の地位向上につながる」と期待する。「ノコッタの取引が盛んになるよう、仲間を増やしたい」と多くの活用を呼びかけている。

### 埼玉の板金業者「仲間増やしたい」



八塩雄一社長

「ノコッタ」のサイト

SDGs

紙面から

「スラムタンク」聖地再び

映画版のヒットで、鎌倉市の江ノ島電鉄の踏切が再びにぎわいを増している。

双葉町唯一の診療所開所  
見えぬ将来いつか母国に

文化 小説3